

## 「単元構造図」の作成と模擬授業による授業力の向上

保健体育・日野克博

### 1. 授業の概要とねらい

「保健体育科教育法Ⅳ」は，中学校教諭第一種免許状（保健体育）の取得に必要な科目であり，保健体育科教育の目標・内容・方法を総合的に学習することになっている．本授業は3年生後期に開講され，これまでの「保健体育科教育法Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」並びに附属学校での教育実習の経験を踏まえ，よりよい体育授業を実現するための教材研究や授業改善のための具体的な方法を身につけることを目的にしている．

本年度は，単元構造図の作成を授業内容として位置づけた．これまで教育法で実施してきた模擬授業では主に1単位時間の授業を想定していたが，学校現場では単元を一つのまとまりとして授業構想や授業実践を行っており，単元をデザインする力や単元経過のなかで授業を改善する力を身につけることが大切だと考えた．本報告では，今年度より導入した単元構造図の作成を中心に，そのねらいと授業成果について報告する．表1は本授業のスケジュールを示している．なお，第2～5回は保健分野の授業であり，第6回以降の授業を本報告の対象とする．

表1. 授業のスケジュール

第1回	教育実習のふり返り
第2回	保健分野
第3回	保健分野
第4回	保健分野
第5回	保健分野
第6回	近年の体育授業研究の動向
第7回	典型教材を例にした単元デザイン
第8回	典型教材を例にした単元デザイン
第9回	指導内容の明確化，体系化
第10回	単元構造図の作成
第11回	模擬授業1
第12回	模擬授業2
第13回	単元構造図の修正
第14回	模擬授業3
第15回	まとめ

### 2. 単元構造図の作成について

単元構造図とは，「指導内容の明確化」「指導と評価の一体化」「効果的，効率的な学習評価」等，教育現場での課題に対して，簡単な構造図の作成過程を通して，全体を俯瞰しながら授業のイメージを単元レベルで具体化させるものである．

単元構造図の作成のねらいは，次の3つである．

- ・発達段階のまとまりを踏まえて改訂された学習指導要領の内容を確認する
- ・単元をデザインし，その流れのなかで1単位時間の授業を構想する
- ・効果的・効率的な評価のあり方を踏まえて，評価機会を精選する

### 3. 授業の展開

#### 1) 学習指導要領における指導内容の体系化

小学校，中学校，高等学校の学習指導要領で示されている内容をカード化し（授業では，ベースボール型ゲームの技能の内容を対象とした），その内容（カード）を発達段階（学校種）に対応させて並べ替える作業を各グループで行わせた．

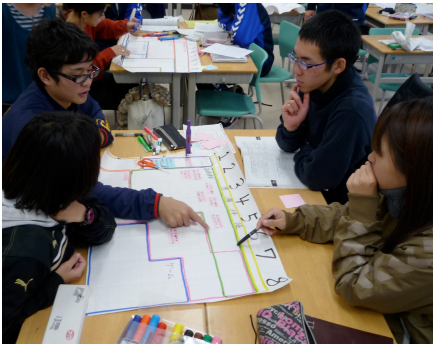
作業後，実際の学習指導要領で確認させることにより，自らのイメージと学習指導要領とのズレを感じたり，小学校から高等学校までを見通した指導内容を設定することの大切さを実感させた．



## 2) 単元構造図の作成

学習指導要領に示された例示の内容を取り上げ、具体的な学習過程と学習活動（教材）をグループで相談しながら考えさせた。

なお、共通の条件として単元の時間を8時間と設定し、その時間内に実現したい姿（ゴール）に到達できるようにすることを意識させた。また、どの場面で何を指導するのかを具体的に示すとともに、その実現状況等をどの場面でどのように評価するのも構造図のなかに盛り込むようにさせた。



## 3) 単元構造図に基づく模擬授業と省察

グループごとに、作成した単元構造図のなかの1授業について模擬授業を実施した。そして、模擬授業のふり返り（省察）にあたっては、構造図に基づきながら単元の位置づけや流れなどを意識して、授業改善を図らせた。授業時数の関係で、半分のグループが修正した構造図で再度、模擬授業を実施した。

授業全体のまとめの時間は、最初に作成した単元構造図をもとに、模擬授業を通して改善を図ったところを発表し、授業構想する場合のポイントや意識すべきことについて理解を深めさせた。



## 4. 学生の授業評価

本授業では、①DPに基づくアンケート調査、②学生の自由記述式アンケート調査を通じて、学習

成果と課題について検討した。ここでは、学生の自由記述式アンケート調査の結果を報告する。

表2. 学生のコメント

- これまでやってこなかった単元を意識した授業づくりに関する知識を得ることができた
- 単元構造図を作成する課題はすごく効果的であり、面白かった
- 単元構想とは何なのかがわかった。もっと深く考えたかった
- 今までの模擬授業と違って、単元計画を作成したことがとても勉強になってよかった
- 毎回課題があるのは大変だと感じたが、その分学んでいるという実感があり、授業をふり返ることができたのでためになりました。
- 単元の流れや工夫について学ぶことができた
- 単元を見通した授業が必要なので、それを意識した授業ができていた
- 構想→実践→ふり返り→構想→実践の順序がよく、目的がはっきりした授業であった
- 単元構想から授業づくりを行うことで、ねらいと評価を関連させて考えることができた
- 教育実習前にやってほしかった
- 単元のなかの模擬授業をする1時間だけ授業を行ったが、すべての回の授業をしてみたかった
- もっと早い段階に作成していれば、より指導に活かせていた

## 5. 本授業の成果と今後の課題

本授業では、単元構造図の作成を通じて、授業力の向上をめざした。学生の授業評価や感想からは、これまでの模擬授業による単一の授業計画から、単元を見通した計画を立てることにより、新たな視点や知識を得ることができていたと推察される。また、ワークショップ型の授業を実施したため、学生の主体的・積極的な参加がみられた。

なお、本授業で用いたツールは、全国の指導主事研修や教員免許更新講習で活用されているものと同様である。すなわち、単元構造図が単元を見通したプランニングであるように、教員養成も学校現場での授業実践を見通しながら効果的・効率的な研修ツールを活用して、授業改善を図っていく必要がある。大学と教育現場をつなぐためには、こうした同じ目的や基準のツールを使うことが効果的と考える。次年度は、まず附属校園と連携して、大学と附属校園の指導を橋渡しする学習ツールを模索していきたい。